

学校目標・経営方針	ものづくりを通して地域産業界に貢献できる技術者の育成
-----------	----------------------------

本年度の重点目標	1 基本的生活習慣を確立し、総合人間力の育成に努める
	2 基礎学力の定着を図り、生徒の進路実現に努める
	3 生徒会活動・部活動を通して豊かな人間性と逞しい身体の育成に努める
	4 社会的自立・職業的自立に向けた力を身に付けた、工業のスペシャリストを育成する

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価						
番号	評価項目	本年度の重点目標	具体的方策	年度末評価(令和3年2月5日現在)		
				方策の評価指標	自己評価結果	達成度
1	基本的生活習慣を確立し総合人間力を高める指導の充実	①教職員の情報の共有化に努め、遅刻を繰り返す生徒の原因究明を行い、継続的な指導に努める。	各月ごとの数的推移	遅刻する生徒数は減少しているが、特定の生徒の遅刻が多い。遅刻の多い生徒は家庭や精神面で問題を抱えており、生徒支援員によるカウンセリングを実施した。	B	遅刻を繰り返す生徒へは、生徒支援的な視点から、本人の精神的成長を促す指導が必要である。必要とあれば医療機関と連携しながら指導していく。 ・バイク実技講習会や交通安全教育の実施を今以上に実施し、今後もしっかりと指導を徹底していく。 ・新型コロナウイルスにより、独居老人宅訪問、甘利山清掃活動等のボランティア活動が実施できなかった。
		②バイク・自転車安全運転教育・点検の充実と自転車の交通ルール、マナー違反の改善に努める。	実施結果の検証	・交通事故件数は昨年より多い。特に自転車事故が多く、周囲の状況をよく確認していない状況が見られる。 ・新型コロナウイルスにより、独居老人宅訪問、甘利山清掃活動等のボランティア活動が実施できなかった。		
		③7S活動の徹底、通学路のゴミ拾い、ボランティア活動等を実施し、環境美化意識及び愛校心、社会貢献精神の涵養に努める。	アンケート及び実施結果の検証			
2	基礎学力定着のための指導と個々の生徒の進路実現及び夢の実現にむけた指導	①わかる授業実現と評価方法の見直しを図りながら、生徒の学習意欲の向上に努める。	授業アンケートと授業観察	「学校評価アンケートでは、83%の生徒が「先生はわかりやすい授業を工夫している」と回答。また81%の生徒が「テストの得点だけでなく、様々な観点から評価してくれる」と回答している。 ・放課後の補習等については93%の教員が実施している。家庭学習に取り組んでいる生徒は55%と、昨年より増加している。	A	・今後も授業アンケートを実施し、「わかる授業」を推進していく。 ・年度当初が臨時休業であった生徒が、家庭学習に取り組んでいる生徒が増加した。習慣づけができた生徒を減らすことなく、さらに家庭学習の定着を図るため、評価規準や課題の出題方法を工夫していく。 ・多くの企業の協力により、企業実習や産業説明会を実施することができた。
		②基礎学力が不十分な生徒への補足的な課外学習等に努める。	基礎力テストの結果の検証			
		③進路実現にむけて各種進路行事・活動に積極的に取り組ませるとともにコミュニケーション能力の育成を図る。	アンケート及び進路実績の検証	・新型コロナウイルスの影響により、企業実習は多くの企業で縮小・中止を余儀なくされた。また、部活動においても県総体の中止や各種大会が中止となった。 ・コロナ禍でも実施可能な行事の在り方や、部活動の練習方法を検討実施できた。特に学園祭においては、外部の者を招かず、密にならない競技を企画実施した。 ・本該部、新聞委員会は来年度の全国総文祭への出場が決定した。	B	
3	生徒会活動・部活動の活性化と活動を通して豊かな人間性と逞しい身体の育成	①生徒会活動を通しての自主自律の精神と道徳性の向上に努める。	アンケート及び活動実績の検証			・コロナ禍において、規模を縮小したとはいえ、感染対策を施した上での学園祭を企画実施できたことは、生徒の自主自立の精神の向上に繋がったと思う。 ・新型コロナウイルスが収束するまでは、例年通りの行事や部活動は難しいが、生徒のモチベーション低下を防ぐためにも、感染症対策と両立できる内容や実施手順を引き続き検討していく。
		②指導内容の工夫や生徒による主体的な活動を推進し、部活動の活性化を図る。	活動実績の検証			
		③地域に開かれた学園祭の企画と立案や広報活動に努め、積極的な取り組みを図る。	実施後アンケート結果			
4	高度な知識・技術を習得した工業のスペシャリストの育成	①企業実習や企業見学への事前指導を強化し、効果的なインターンシップの実施に努める。	実施後アンケート結果	・企業実習は、臨時休校やコロナ対策での企業の負担増などから実施が危ぶまれたが、例年2年生全員を3期に分けて実施していたところを2期にて実施した。 ・新型コロナウイルスによる就職への影響が懸念されたが、求人数は減少したが、例年通り就職率100%を達成できた。特に1次試験での合格率は過去最高の99.1%であった。 ・企業技術者による講習や外部機関との連携は、感染症対策を施す中で実施できた。	A	・新型コロナウイルスにより多くの企業が今年度の業績を落としている。来年度の求人数の減少が危ぶまれるため、職員の企業訪問を充実させて、求人数確保に努めていく。 ・前期での資格検定試験の多くが中止されたが、地域連携ものづくり事業や外部機関との連携もあり、延べ取得数が14年連続1000件を突破した。今後も引き続き指導を充実させていく。
		②進路実現・資格取得に向けて地域連携ものづくり事業を有効に活用する。	取得実績の検証			
		③産業技術短期大学校等の外部機関と連携し、国家技能検定などの高度資格に挑戦させ合格者の増加を図る。	取得実績の検証			

学校関係者評価	
実施日(令和3年2月12日)	
評価	意見・要望等
4	・人間力を見るための方法論として「仕事をするための七重の塔」という考え方がある。生徒がもつ潜在価値をしっかり把握しながら、頭を価値である行動面を確認するよ。 ・無灯火の自転車通行が減少した。 ・独居老人宅の環境整備などのボランティア活動を見て、感謝している。 ・地域の交通安全のためにも、自転車等の点検の充実をお願いしたい。 ・生徒のあいさつが非常に良い。 ・学校不適応による中途退学者へのさらなる指導をお願いしたい。
4	・学力の向上には学校に課せられたテーマである。「わかった」「できた」といった、学習することの楽しみを味わせてあげてほしい。 ・例年、少なからず退学者がいるが、極力無いように努めてほしい。 ・臨時休校の家庭学習等の成果を生かしてほしい。 ・これからの授業形態としてオンライン授業が通常の授業に入ってくるであろう。 ・不登校の生徒にリモート授業が実施できないか。 ・授業参観では、生徒がとても明るく授業を受けていると感じた。
3	・生徒の自主性や主体性を引き出すことが、これからの学校の使命でもある。 ・この学校で学べてよかったと言える生徒を一人でも多く育ててほしい。 ・部活動がコロナ禍の中で大きく制限されていることへの工夫と対策を行い、生徒のストレス回避をお願いしたい。 ・部活動や先輩の指導が良い。学校の空気が明るい。 ・ロボコンやまなし等をはじめ、例年素晴らしい成果を上げている。企業の方々にもぜひ知ってもらいたい。
4	・生徒の育成において、就職や進学にも目標を設定し、入学時から計画的に取り組んでおり、成果を上げている。 ・今年度の課題研究発表をビデオで拝見し、多くの生徒に実験・実習等からものづくりの楽しさを通して感覚内容を学び、まともな上げるといった、感性(Sensibility)の動きが備わりつつあるように思えた。 ・就職率100%は素晴らしい。 ・モチベーションを上げるためにも、企業実習、資格取得に積極的に取り組んでほしい。 ・コロナ禍でも就職内定状況が例年以上であり、素晴らしい。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

令和2年度版 改善計画

学校名： 韮崎工業高等学校

No.	項目	現状と課題	R3年度に目指すべき状態	①R2年度に実施する内容 ②R3年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	（現状） 会議資料は事前配布するとともに、要点を絞った提案を行い効率化を図っている。 （課題） 会議（委員会）の精選と更なる内容の効率化、構成員の見直しなどを検討する必要がある。	会議（委員会）の精選と構成員の見直しを行い。短時間（1時間以内）で効率的な会議運営が行われている。	①会議資料の事前配布及び事前確認を徹底する。 ①終了時間の設定を行う。 ①効率的な提案を実施する。 ②会議（委員会）の目的を明確にし、精選・統合を検討する。 ②会議（委員会）の内容に合った必要十分な構成員となるよう検討する。 ②既存の委員会等の活用を検討する。	A
2	学校行事の負担軽減	（現状） 行事が多く、準備や運営に時間と労力を必要とする。 （課題） 行事の精選や効率化を図る必要がある。	行事の重要度を考慮した削減と内容の精査を行い、効率的な運営が行われている。	①各行事にて、昨年度よりも効率的な運営を実施する。 ①必要に応じて事後アンケートなどを行い、重要度を確認する。 ②目的や教育的効果を再検討し、行事の廃止・縮小を図る。 ②担当者交替時の負担を軽減するため、マニュアル化を進める。	A
3	校内組織の見直し	（現状） 分掌が多く、複数の分掌に所属しているため、仕事が多岐化している。 （課題） 分掌の統合・削減を図り、複数分掌への所属を解消する必要がある。	分掌の統合・削減を図り、限られた人員での適切な配置と業務分担により、効率よく業務を遂行している。	①前年度統合した分掌についてその成果を検証する。 ①各分掌の業務の重要度と必要性を確認する。 ①業務を確認し、誰もが引き継げるような標準化（マニュアル化）を進める。 ②業務内容に見合った人員数を検討し、複数分掌への所属の解消を図る。	B
4	業務の効率化	（現状） 共同作業や分担が明確でなく、一部の職員に負担がかかりすぎている。 （課題） 業務の効率化と負担の分散を図り、定時退校を推進する。	行事会議分掌等が見直され、業務の削減と負担の分散が行われている。	①分掌業務のマニュアル化を進める。 ①電子データの共有を図り、紙資料を削減する。 ②作業の内容を再確認し、負担の分散と、共有サーバやメールを活用するなどした効率化を図る。	B

5	部活動の負担軽減	<p>(現状) 複数顧問を配置しているが、休日の指導など負担が大きい。</p> <p>(課題) 顧問間で役割を分担し、適切な休養日の設定を進める必要がある。</p>	<p>教職員のワークライフバランスが確保され、適切な部活動完全休養日が実施されている。</p>	<p>①「きずなの日」を月2日設定。 ①定時退校日を月2日設定。 ①平日1日、土日1日の休養日を目指す。 ①四半期ごとの管理職による部活動状況の確認と指導助言。 ②顧問間のワークシェアリングにより負担軽減を図る。 ②部の削減・合併、全員入部制を検討する。</p>	B
6	地域人材の活用	<p>(現状) 基幹産業担い手育成事業や企業連携による実習授業など、地域企業からの講師による指導を受けている。</p> <p>(課題) 資格取得や技能検定の指導が大きな負担となっている。指導者を増やし負担を分散させる必要がある。</p>	<p>外部講師を活用し、資格取得などに効果的な指導が行われている。企業実習や外部講師の授業などで、実践的な指導が展開されている。</p>	<p>①マイスター等を活用し、外部指導者による技術指導を実施する。 ①企業技術者による、より実践的な授業を実施する。 ②資格取得等の指導が一部の職員に偏らないよう、指導方法を共有し、教員の技術力向上を図る。 ②地元企業と連携して、企業技術者による授業実習の充実を図る。</p>	A

※達成状況：次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村（組合）教育委員会へ提出する。

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった

※様式は、必要な項目が含まれていれば、適宜、変更して使用して差し支えないこと。